# 令和8年度　第1回　中部地方整備局事業評価監視委員会　報告案件一覧

資料14

## ■再評価

| 番号 | 事業名<br>（箇所名） | 実施箇所 | 事業期間等 | 総事業費（億円）<br>上段：前回評価時<br>下段：現時点 | 事業を巡る社会経済情勢等の変化 | 主な事業の進捗状況 | 主な事業の進捗の見込み | コスト縮減や代替案等の可能性 | 事業の投資効率性<br>上段：前回評価時<br>下段：現時点 | | 流域委員会等<br>の審議結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1<br>（資料15） | 狩野川直轄河川改修事業 | 静岡県沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町） | 令和9年度<br>～令和38年度 | 463<br>1,221 | ・令和元年東日本台風では、戦後最大の被害を発生させた狩野川台風と同規模の降雨により、浸水家屋約1,250戸の内水氾濫等による被害が発生しました。また、令和3年7月出水では黄瀬川大橋橋梁の損傷、令和7年9月の集中豪雨による急激な水位上昇など、近年の降雨特性や気候変動による降雨量の増加など、災害発生リスクが高まっているため、流域一帯で対応を図る必要があります。<br>・狩野川流域と他地域を結ぶ交通網としては、昭和39年(1964年)に東海道新幹線が開通、昭和44年(1969年)に東名高速道路が全通し、氾濫原に位置する下流域の沼津市や三島市は交通の要衝となっています。さらに、この地域は伊豆や富士といった観光地へ向かう交通網の整備も進められています。<br>・近年では、新東名高速道路の一部開通（平成24年(2012年)）、伊豆縦貫自動車道のうち東駿河湾環状道路（三島塚原～函南塚本間）（平成26年(2014年)）、天城北道路（大平～月ヶ瀬間）（平成31年(2019年)）の開通など、整備は着実に進んでおります。<br>・令和5年8月に、気候変動を考慮した流域治水プロジェクト2.0を公表し、流域全体で協力して治水安全度を向上させる取り組みを実施しています。<br>・流域市町がまちづくりや住まい方の誘導による水害に強い地域づくりを進める際、水害リスク情報の共有・提供など技術的な支援や、中高頻度の外力規模の浸水想定や施設整備前後の浸水想定などの水害リスク情報の提供等を行います。<br>・住民の避難を促す取組や、水災害防災への意識向上啓発、防災・減災教育の取組の推進などを行っています。 | 狩野川本川は、既往最大洪水である狩野川台風(昭和33年9月洪水)に次ぐ規模の洪水(基準地点大仁：3,100m3/s)に対して、支川は既往最大洪水流量規模の洪水が発生した場合においても、外水氾濫による家屋等の浸水被害を防止することを目標に河川整備を進めて参りました。<br><br>整備計画策定以降、河道掘削、堤防整備等を進めており、減災対策としては、塚本地区に河川防災ステーションが整備されました。 | 当面の段階的な整備(概ね5か年)として、黄瀬川合流点下流において河道掘削を実施します。<br>また、狩野川放水路下流区間の堤防整備や横断工作物の改築を継続して実施します。<br>中小規模洪水における流域の治水安全度を向上させるため、既設狩野川放水路分流堰の改築を実施します。 | 【コスト縮減】<br>・河道掘削により発生する土砂は海岸養浜材や防災ステーション整備時の盛土材等として利活用することを積極的に検討し、コスト縮減を図っていきます。<br>・事業実施の各段階において、工法の工夫や新技術の採用などによるコスト縮減や工期短縮等に努めます。<br>・樹木伐開に合わせて天地返しや伐採木の配布を積極的に行うことで廃棄物の総量を減らし、コスト縮減を図っていきます。<br><br>【代替案立案の可能性】<br>・河川整備計画は、流域における社会経済状況、自然環境の状況、河道状況を踏まえて策定したものであり、現時点においては河川整備計画における河川改修が最も妥当であると考えます。 | 【事業全体】<br>総便益B：4,418億円<br>総費用C：640億円<br>B／C＝6.9<br><br>【事業全体】<br>総便益B：7,185億円<br>総費用C：679億円<br>B／C＝10.6 | 【残事業】<br>総便益B：838億円<br>総費用C：92億円<br>B／C＝9.1<br><br>【残事業】<br>総便益B：7,185億円<br>総費用C：679億円<br>B／C＝10.6 | **改善継続** |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |